

# はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2015  
Vol. 12

## ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

西宮神社提供

## Message メッセージ

### 血液内科診療の現況

分子標的薬による血液疾患診療

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

## Information お知らせ

### にしびようTopics

「栄養サポートチーム専門療法士」臨床実地修練カリキュラム

### 栄養士の日

栄養管理課

### 院長エッセイ「四季雑感」

秋の夜長に想う

### 医療技術NOW!

手術支援ロボット ダ・ヴィンチ

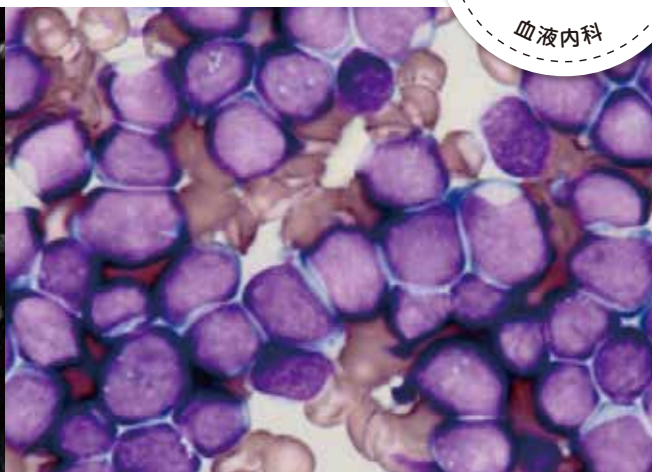
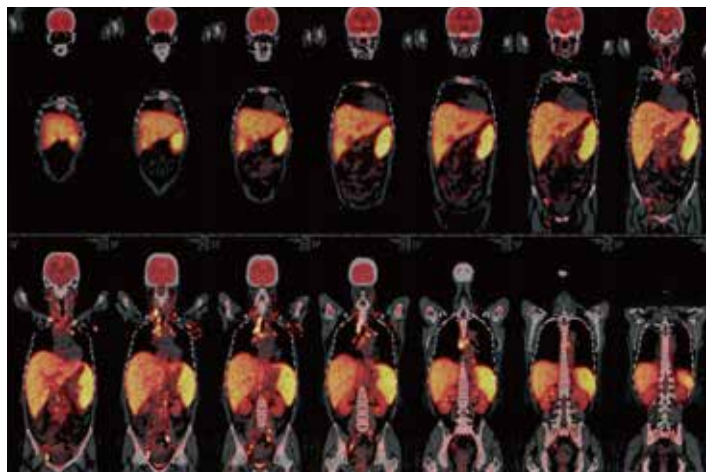
### 絵の中の風景を旅するvol.12

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



# 血液内科診療の現況

血液内科部長：上田 周二



## 分子標的薬による血液疾患診療

**従** 来からの抗癌剤は、細胞に障害を与えて細胞を壊す薬剤で癌細胞以外にも盛んに増殖する正常細胞も壊してしまう特徴があります。これに比べ分子標的薬剤とは癌細胞が持つ特徴的な異常を標的として作用する薬剤です。血液疾患においては、まず病気の原因が判明していた慢性骨髄性白血病に対して、その原因(チロシンキナーゼという酵素の異常な活性化)を抑える内服薬として登場しました。病気の原因に即した治療であったため、効果は華々しく造血幹細胞移植でしか治癒しえない疾患が内服薬で根治も期待できる疾患へと大きな変貌を遂げました。

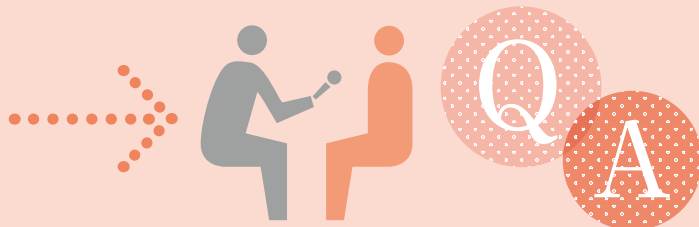
**し** かし、多くの癌においてその原因は未だ不明です。ただ原因は不明でも現代医学においては癌細胞の性質を調べることは容易です。癌細胞が細胞表面に出しているタンパク質を攻撃する抗体療法や

癌細胞がもつ遺伝子異常に作用する分子標的薬が多く創薬されています。これらの薬は副作用が少なく従来型の抗癌剤とも組み合わせて使用されます。悪性リンパ腫における抗体療法や多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害剤などが登場し治療成績の大幅な改善がみられています。

**ま** た癌以外でも分子標的療法は応用されています。発作性夜間ヘモグロビン尿症は、補体の活性化によって血管内溶血をきたす疾患です。この疾患は癌ではありませんが、補体の作用をとめる分子標的薬剤が劇的な効果を示します。

もちろん分子標的薬剤であっても限界もあれば副作用もあります。当院ではその点についても十分患者さんにご理解いただいた上で治療に臨んでいただいております。

血液内科について質問!  
INTERVIEW



**Q** 抗がん剤治療にあたり「虫歯は治しておいた方がいいよ。」と主治医から言われました。抗がん剤の治療中は、歯の治療は受けられないのでしょうか。

**A** 治療が開始されてから、歯科治療を受けた場合、抗がん剤による口腔トラブルなどの有害事象により感染のリスクが高まる時期があり、受診のタイミングが難しくなるので事前に治療しておく事をお勧めします。

**Q** 分子標的薬の治療は入院が必要ですか。

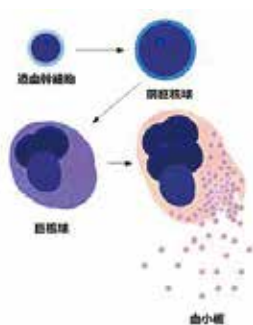
**A** 血液内科では慢性骨髄性白血病の治療を、従来は抗がん剤の点滴治療でおこなってきましましたが、分子標的薬の登場で、通院治療や在宅治療が可能になり患者さんのQOLを高く保ちながらの治療が継続できるようになりました。

(血液内科病棟 看護師長 大安 三重)

最新情報

iPS細胞を用いたヒト血小板の作成

2014年京都大学の江藤らによってiPS細胞からヒト血小板を大量に作成する方法が報告されました。現在、血小板輸血は献血による血液製剤を用いて行われていますが、少子化によるドナー減少など安定供給が今後疑問視されています。iPS細胞からのヒト血小板作成は安定供給以外にも、感染症等の副作用回避など多数の利点もっています。実用化については臨床試験などいくつかのステップが必要ですが、そう遠くない将来輸血の形態が大きく変わってくるかもしれません。



(血液内科医長 松永 一美)

スタッフ紹介



左から

- 中田 継一(血液内科専攻医)
- 上田 周二(血液内科部長)
- 町田 朋久(血液内科専攻医)
- 松永 一美(血液内科医長)

## 平成27年度「栄養サポートチーム専門療法士」臨床実地修練カリキュラムを実施しました

6月22日～26日、日本静脈経腸栄養学会認定資格「栄養サポートチーム専門療法士」臨床実地修練カリキュラムを開催しました。当院はJSPENのNST教育認定施設であり、毎年カリキュラムが実施されています。今年度は院外より10名・院内より2名の参加があり、多職種からの講義・病棟でのカンファレンス見学・症例検討など盛りだくさんの内容でした。受講者からは「とても刺激になった。自施設に帰ってスタッフに伝えたい」との声がありました。栄養管理やチーム医療について理解を深められた5日間でした。

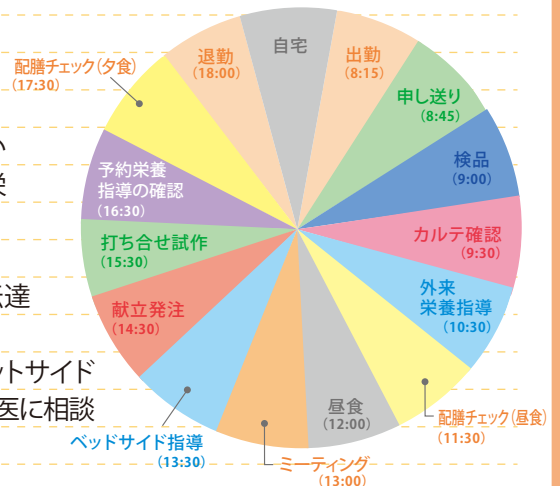


### 管理栄養士の一日

管理栄養士の勤務スケジュールです。栄養の分野を取扱うスペシャリストの一日です。



- 8:45～9:00 **申し送り** 朝食については委託会社が提供しているため、問題などがなかったか申し送りをしています。
- 9:00～9:30 **検品** 翌日などに使う生鮮食品の検品を調理師と共に行っており、野菜の品質や鮮度などを厳しくチェックしています。
- 9:30～10:30 **カルテ確認** 特別食(糖尿食・腎臓病食などの治療食)が提供されている方には、ベットサイドに栄養指導に伺うため、準備をします。
- 10:30～11:30 **外来栄養指導** 三日分の食事記録を持参してもらい、自宅の食事を細かく確認。病態を踏まえつつ、献立のポイントや調理のコツなど、実践的な指導を行います。
- 11:30～12:00 **配膳チェック(昼食)** 昼食が配膳車の中に正しく入っているか、アレルギーなどの対応が間違っていないか、委託栄養士・調理師・栄養士でトリプルチェックを行っています。
- 12:00～13:00 **昼食** 事務所で昼食。
- 13:00～13:30 **ミーティング** 調理師へ献立内容や食事の変更等の伝達をします。
- 13:30～14:30 **ベットサイド指導** 特別食を食べられている患者様のベットサイドに訪問。食べられない場合は食事内容を調整したり、主治医に相談しています。
- 14:30～15:30 **献立・発注** 来週の献立の確認や、発注作業を行います。
- 15:30～16:30 **打ち合わせ・試作** 調理師との打ち合わせや、新メニューの試作などを行っています。この日は近日中に行われる集団教室の試作を行いました。
- 16:30～17:30 **予約栄養指導の確認**
- 17:30～18:00 **配膳チェック(夕食)**
- 18:00～ **退勤**



出勤すると厨房の調理師さんからすぐに声がかかります。委託の栄養士さんとも、その日のアレルギー食や味付けなどについて綿密な打ち合わせをするなど、朝からお忙しそうでした。また、入院中の患者さんのベットサイド指導では入院中に治療食のポイントを理解して頂き、退院後も楽に治療食を継続していただけるようにという熱い思いが伝わってきました。病棟の看護師さんからの食欲不振についての相談にも、快く親切にのっておられました。18:00には、なかなか、退社できないようですが、きょうも明るく元気に、栄養のサポートに全力で取り組んでおられます。

(調査員 H氏)



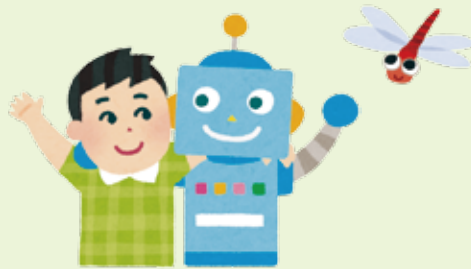
# 四季雑感



**秋**の夕暮れのひんやりとした冷気は、どこか澄んでいて、一日の活動が終わりを告げようとする時刻にふさわしく感じられます。時として不安な苦い香りを混えた秋冷の気は、自然の美しさへの感受性だけでなく、人々の探究心を高めてくれるようです。

10月に入ると、科学的探究心の精華ともいえる、各分野のノーベル賞が次々と発表されます。とくに日本人の受賞者が発表されようものなら、私たちはなんとも満ち足りた気分させられるものです。近年は医学の分野でも、日本人により開発された医薬品が次々に現われて、かつては治療法が極めて限られていた難病にすばらしい効果を発揮するようになっています。とりわけがん治療の分野では、体内の腫瘍を異物と認識して、免疫力でがんを排除する機能を高めてくれる抗がん剤が注目されており、今後が楽しみな状況になってきています。

一方では、社会のロボット化が進んでいますが、医療の世界でも、その波が押し寄せてきており、外科手術が今後大きく変わろうとしています。県立西宮病院の泌尿器科では、前立腺がんの手術にロボット装置(通称ダ・ヴィンチ)を導入することになりました。将来的には、外科系の各科でロボット手術が日常化するようになると予想されています。さらに欧米では高度な人工知能を搭載して、完全に自動化された手術ロボットの開発が、SFではなく現実に進んでいるようです。秋の夜長には、感傷におぼれることなく、レオナルド・ダ・ヴィンチのように、静かに未来に想いを馳せるのがふさわしいかもしれません。



兵庫県立西宮病院 院長  
河田 純男

## 医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

### 【手術支援ロボット ダ・ヴィンチ】

ダ・ヴィンチによるロボット手術は術者が操作機器を介して行う手術で、3Dカメラによる鮮明な画像にて人間の手首と同様に動く専用のロボットアームを駆使することにより、腹腔鏡手術より精度の高い手技を可能にします。前立腺癌に対する前立腺全摘除術は2012年4月に保険適応となり、出血量減少、術後疼痛軽減、機能温存向上、合併症リスクの大幅な回避など様々なメリットが評価されています。当院でも同機器が今秋に導入されることになりました。



(泌尿器科部長 西村憲二)

# 絵の中の風景を旅する vol.12

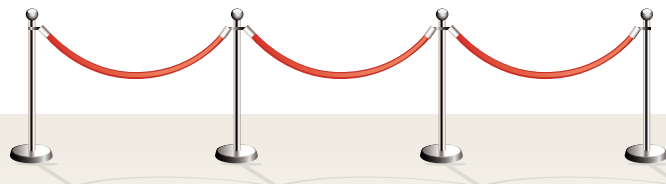
<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200以上にのぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館贈品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



#### 展示場所

当院ホームページ  
Webミュージアム



「浚渫」 皆さんは、あまり馴染みのない、この難しい漢字をご存じですか？

この漢字は「しゅんせつ」と呼び、港湾や河川・運河などの底面を浚(さら)って土砂を取り去る土木工事を言います。この絵は、今、川底にたまっている土砂をガリガリとすくい上げ、運搬船に移し替えている様子を描いているダイナミックな作品だと思います。河川に土砂がたまると、川底が浅くなり、水の流量が減ったり、河川を行き交う船が航行できなくなるなど、弊害が大きく、大変な作業ですが重要な役割を担っています。まさに河川の多い日本での縁に下の力持ちの作業だと思います。

(総務部:足立彰久)

地域医療連携センター直通電話を開通することになりました

地域直通電話 TEL:0798-34-5174 (平日9時~17時)

## 編集後記

編集室



猛暑の夏から秋、そして冬へと季節が移ろいでいく最中、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて今回は、いよいよ当院で稼働する手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」についてご紹介いたしました。これらの手術には、高度な医療機器と良質な知識と技術を持ったスタッフが一体となって行う必要があります。職員一同、かのレオナルド・ダ・ヴィンチのような幅広い知識と探究心を習い、当院の基本理念であります、「患者さんの意を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって地域社会に貢献すること」に、今後とも邁進していきたいと思っております。

(総務部総務課:細谷昌弘)

H A M A K A Z E

2015  
Vol. 12

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号  
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436

E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

2015.11 発行